

進捗報告書（実行団体）

事業名:	アウトリーチパントリープロジェクト
資金分配団体:	退所者を含む地域母子家庭への配送食支援
実行団体名:	一般社団法人全国食支援活動協力会
実施時期:	社会福祉法人ベタニヤホーム
事業対象地域:	2021年6月～2022年2月
事業対象者:	東京都
	施設退所母子家庭、地域の母子家庭、食支援団体

Version 1.2

日付： 2021年11月1日

I. 事業概要

事業概要
<p>1. 当施設の退所者支援の量的拡大 退所後の生活安定に向けた相談を食品配布と合わせ、退所者のアフターケアへの忌避感を低減し社会的孤立を防止する。</p> <p>2. 地域に暮らす母子家庭、及び社会的養護施設退所者のうち単身女性への食支援 地域で暮らす母子家庭に施設を配布拠点とした食品配布を行うと共に、そこで生活上の相談を受け、母子生活支援施設の利用を積極的に促進する。</p> <p>3. 墨田区内子ども食堂及び食品配布拠点との連携 ロジスティックスの拠点として区内子ども食堂に寄贈食品の配布を行う。城東地区地域福祉協議会、墨田区社会福祉協議会、墨田区清掃事務所を通じて、子ども食堂、配布拠点への周知連携を図る。</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>支援の件数としては、概ね計画を上回る実績で進んでいる。ネットワークミーティングも、第1回を11月5日に開催することができた。その中で見えてきた課題としては、寄贈食品の搬送の問題、今後墨田区内の児童館とどのように連携していくか、また、各食支援団体も当施設も本当に支援が必要な人に届けるにはどのように広報・周知したらよいか、という問題である。</p>

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>①退所家庭の年間アフターケア件数を前年度比125%以上とする。（79件→99件）</p> <p>②訪問するアフターケア（アウトリーチ）件数を前々年度比115%以上とする。（*令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い訪問型アフターケアを実施せず。6件→9件）</p> <p>③年間アフターケアのうち食品配布家庭件数を前年度比225%以上とする。（12件→27件）</p> <p>④地域母子家庭、社会的養護施設出身単身女性への食品配布を1回実施する。</p> <p>⑤墨田区内食支援団体への食品配布、及びネットワークの形成を年度内9回（配布先件数は未定）実施する。（事業期間内8回）</p> <p>⑥食支援ネットワークのミーティングを年度内2回開催（事業期間内では1回）</p>	<p>以下、数字は10月末時点</p> <p>①アフターケアは137件で、前年度比173%。</p> <p>②前年度までは、食を絡めたアウトリーチ型アフターケアは0件だったが、現在5件。</p> <p>③3回のパントリーでのべ35世帯・前年度比291%（年間5回開催予定）。</p> <p>④12月25日に開催予定で準備中。</p> <p>⑤配布先は8団体、39件の食品配布および12回のネットワーク形成のための訪問。</p> <p>⑥第1回を11月5日開催。12団体24名が参加。次回は、3月に開催予定。</p> <p>概ね順調に進んでいる。</p> <p>施設のアフターケア件数は、食をツールとすることで確実に相談件数が伸びている。アウトリーチ型のアフターケアについても、食を届けるという形をとることで訪問しやすくなっている。</p> <p>地域の母子家庭および施設出身単身女性を対象とする食品配布については、シェルター機能も持つ母子生活支援施設として情報の周知の方法が課題である。</p>

活動	進捗状況	概要
①アフターケアとしてのパントリー ②墨田区内の子ども食堂等活動団体への食品提供状況 ③ネットワーク構築に向けての動き	ほぼ計画通り	①アフターケアとしてのパントリー 実施状況 第1回 6月5日（土）：10世帯（26人） 第2回 7月31日（土）または別日対応：13世帯（28人） 第3回 10月2日（土）または別日対応：12世帯（33人）、今後3世帯（6人）予定 ②墨田区内の子ども食堂等活動団体への食品提供状況 6月以降10月末まで、以下の食品を墨田区内10団体（当施設含む）に配布。 6月マヨネーズ600本・カレー味パン工房720本 7月～10月アルファ米等防災食1,347食 8月餃子の王将弁当160食 8月パウンドケーキ（ミニ）400個 9月牛肉37kg、豚肉68kg、合計105kg 10月チーズケーキ54箱 ③ネットワーク構築に向けて、各団体へ直接訪問し計画について説明（8団体すべて終了）。行政の呼びかけで今後の動きについて非公式な会合に参加。区内の児童館との連携に向けた呼びかけ・根回しを行っている。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>アウトリーチパントリー2. Xとして2022年度も食支援のロジ拠点を継続するとともに、ハブ拠点の形成を行い、区内食支援のネットワークに厚みをつけていく。特に、区内児童館は今後の食の貧困状況を把握する有効なアンテナとして機能すると考えており、年内には区内児童館館長会に出席し、ベタニヤホームにおけるアウトリーチパントリーのシステムについての説明を実施することとしている。そこから2022年度についてはいくつかの児童館との食事提供以外の食支援連携ができないかを模索したい。また、退所者へのアフターケアを食支援を通じて充実させる方向についても継続するが、今年度上半期で既に昨年度のアフターケア件数の約2倍のケアを実施していることから、現在の職員体制では施設内インケアに影響が出始めている。そのため、アフターケアを主として担当する職員の増配置を検討する必要がある。インケアよりもアフターケアの方がより職員の支援スキルが求められるため、増配置については慎重を期したいと考える。さらには区との連携にあっては議会にても粗上上げる等の取り組みにより、食支援が周知されることを地域に周知していきたいと考えるが、施設の区所管からは周知が大きくなることにより、母子生活支援施設の一機能であるDVシェルター機能の喪失を懸念している点については今後の協議が必要であろう。事業自体のサステナビリティをどう維持していくか、上記各課題をクリアすることで進めることが可能だと考えている。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	-	¥4,000,000	¥4,000,000	¥2,023,282	51%
	管理的経費	-	¥0	¥0	¥0	-
合計		¥0	¥4,000,000	¥4,000,000	¥2,023,282	51%
補足説明						

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>地域の子ども食堂ネットワークを形成することを一つの事業としていたが、墨田区社会福祉協議会（以下社協）により子ども食堂ネットワークが策定されていたため、そのネットワークを援用し、更なるネットワークの強化を図る方向を模索していた。社協のネットワークには、法人のみならず地域の飲食店も加入している。しかしながら、当施設の利用者の当事者世帯の経営する飲食店が含まれており、当施設における食支援ネットワークには飲食店を含まないこととした。ネットワークが同地域に複数形成されることは、ネットワーク加入団体内の関係、更にはネットワーク同士の関係により支援が停滞することが想定される。社協には事実を共有したうえで、社会福祉法人が行う食支援であるため営利を必要とする飲食店の参画を認めなかったという根拠で、ネットワーク会議を開催したが、今後、ネットワークの認知度が上がるにつれ、更に顕在化してくる課題である。</p>

VII. その他

自由記述

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口設置